

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570206748		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	のしろケアセンターそよ風		
所在地	秋田県能代市落合字古悪土1-228		
自己評価作成日	平成28年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 在宅時から係りつけ医を継続、利用者一人一人に合った通院助助を行っている。 * 入院の際は毎日面会に行き不足している物の補充また状態の把握している。 * ドライブ、買い物と外出の機会を多く持ち気分転換を図っている。 * 能代温泉のお湯が引かれてお風呂でゆっくり入浴を楽しんで頂いている。 * 栄養管理のもと食事を楽しんで頂いている。月1回リクエストメニューの日を設け好きな物を注文され食事を楽しまれている。 * 避難訓練、行方不明捜索訓練をひと月毎に交互に実施災害時の取り組みを強化している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人組織を活かした研修等で管理者のリーダーシップの下、3ユニットのリーダーを中心にして職員のスキルアップが図られ、ケアの向上に取り組まれています。周辺に民家が少なく、災害時の協力が得難い地域であることから法定訓練は勿論のこと、避難訓練と行方不明者捜索訓練を毎月交互に繰り返し行い、全職員が一丸となって利用者の安全を確保する取り組みが行われています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念づくりを行い、理念の意味を理解し、理念の共有と実践につなげている。また「そよ風憲章」があり朝礼で唱和することで方針や目標を把握して実践できるように取り組んでいる。	研修で理念教育が行われている他、可能な限り利用者の希望に沿い、ホームで生活し続けられるよう各ユニットで目標を設定し、理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、家族会を開催理解と協力を求めている。そよ風祭には民生委員、地域住民の見学もあり、交流が図られている。併設デイサービス利用者や幼稚園と交流を図っている。	民家が少なく、住民と交流を図ることが難しいものの、周辺を散歩したり、中学校や地域で行われる行事等に積極的に出かけて閉鎖的にならないよう工夫しながら地域の方々と交流できる機会をつくっています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	見学者は随時受付け、いつでも気軽に認知症について相談を受け付ける体制になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者2名も参加されご家族様より参加出来ることをとても喜ばれている。和やかな雰囲気のもと、評価や意見を頂いている。取組の報告を行い、向上に努めている。	ホームの現状や避難訓練の結果や対策等を報告して意見交換が行われ、地域の情報も得ながらサービスの向上に活かせるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各書類の作成時には訪問して適切なアドバイスを受けている。また疑問なことは相談し解決している。訪問し気軽に相談出来、協力関係が築けている。	運営推進会議への参加を通じて、また、電話や直接窓口に出向き、研修にも積極的に参加して協力関係を築いています。研修内容は全職員が資料を確認されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止委員会が2ヶ月に1回開催され、職員の勉強会も開催し全職員の理解に繋げている、拘束、虐待のないケアを実践している。	マニュアルを整備し、勉強会を行って職員の理解を深めています。家族から要望があった場合は、身体拘束による弊害を説明し、ホームの取り組みを理解していただいています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会、勉強会、を開催し拘束、虐待のないケアを行っている。言葉による虐待もないよう常に職員同士が意識し、防止出来ている。また各ユニットに虐待を行わない事を掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修に参加して、職員への勉強会も開催し周知している。 玄関に閲覧できるように設置している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は理解のできる説明を行っている。改定等の際は、家族会で十分な説明を行い納得のもと同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入院時の対応、外出時の対応など、ご利用者、ご家族様の要望を聞いて独自の対応出ている。ご家族、病院でも好評を得ている。	意見等はなかなか出難いものの、家族会で或いは面会時の対話の中から要望の引き出しに努め、話していただいたことは記録に残して共有し、対応されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのミーティング、グループホームミーティングを毎月開催し、意見を聞いている。意見は運営に反映されている。	ミーティング等、職員の意見を聞くシステムが確立されており、管理者を通じて法人本部に伝えられています。新規利用者がある際には、入居前に全職員が状態を把握して対応を検討されており、ユニット間の連携が図られています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤簿は毎日確認して労働時間を把握している。職員個々の努力や実績、勤務状況を把握しベースアップに繋げている。職員の身体状態などを観察して働く環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量を把握して、外部研修、内部研修に参加する機会を確保してスキルアップが出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社のグループホーム向上委員会に参加して情報交換や内部研修を行い、交流や情報交換を行う事でサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談受付票を作成してサービスを導入する段階で、困っていること、不安なこと要望を十分に傾聴して、納得のいく説明を行い信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、十分説明して困っていること、不安なことなど解決でき安心してサービスを導入して頂くようにしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるご利用様を尊敬し、得意なことは教えて頂き共に行い、家族だとの思いで接し信頼関係が築けている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の情報を共有できるよう、常に家族と情報交換できるようにしている。家族の不安に対しては共に医師の話を聞いて対応するなど、家族と共に支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の面会を受け入れゆっくり会話を楽しめる環境を提供している。また馴染みの場所へドライブに出かけたりして馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	面会の少ない家族は家族会に参加されており、入居期間の長い利用者も家族との関係が薄れていることはなく、これまでの生活で行われてきたことが継続できるよう支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に籠ることなく利用者同士が交流できるよう配慮している。ホールの座席も会話が弾み楽しく過ごせるように配慮している。利用者同士が関わり合い、支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困ってる事や不安な事がある時はいつでも相談して下さるよう話している。契約終了後、面会に行き様子を観察している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話などから思いや希望を把握し、家族と相談しながら希望がかなうように努めている。	日常の様子や会話を記録し、アセスメントに活かされています。利用者の希望を日々の生活に反映できるよう取り組まれています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人に面会し家族からも情報収集して、生活環境が変わっても馴染みのものがあり安心した生活が送れるよう支援している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活スタイルを把握し、身体状態、精神状態を観察してその人に合った生活が送れるよう、申し送りや情報交換を行い対応している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、主治医、居宅ケアマネから情報を収集して、本人の思い、家族の思いが反映されるよう、介護スタッフでミーティングを開催し介護計画書を作成している。	担当職員を中心としてモニタリングが行われ、主治医や家族の意見を参考にして利用者本位の介護計画となるよう話し合っ作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をケアプランに添って介護支援経過記録に記入、家族の面会時には思い、要望を会話の中から把握して記録、情報を共有して介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難場所になっている中学校に避難訓練し、中学校の中を見学して生徒と触れ合ったりして地域交流を図っている。運営推進会議には利用者2名も参加して頂き、民生委員、家族代表と会話が弾んで楽しむことができている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に在宅時からのかかりつけ医、かかりつけ薬局、かかりつけ歯科医を利用して頂き、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者それぞれが希望するかかりつけ医で継続受診されている他、緊急時には協力医で受診されています。訪問歯科や薬局との連携もされています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に異変がある時は直ぐに連絡し、状態を観察して頂き適切な指示を受け対応している。医療連携時は状態を報告、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院になった場合は、毎日訪問して状態を把握するよう努めている。必要に応じて、医師、担当看護師、家族、介護職員、ケアマネと話し合い情報交換や相談し早期退院できるように体制を整えている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方を本人、家族と話し合い事業所で出来ることを十分に説明して納得して頂き、本人の思い、家族の思いを尊重し、主治医に相談し出来る限り住み慣れた場所で生活できるよう支援している。	看取り対応は行われておりませんが、家族の思いを尊重し、可能な限りホームで生活できるよう支援されています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力の元定期的に救急救命講習を実施出来ている。また緊急時の対応マニュアルも作成し勉強会を開催して全ての職員が対応できるよう、訓練も行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、運営推進会議で報告をして、消防署員、自治会長、民生委員から適切なアドバイスを頂き次回に生かされている。避難先になっている中学校とも協力体制を築くことが出来ている。	設備等の定期点検、非常口の除雪の他、夜間には移動用車両を各ユニットの玄関前に設置しています。近隣の協力が得難いことから訓練は毎月行われ、避難が長期に及ぶ場合には、法人内他施設を利用することも検討されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	そよ風新聞や写真掲載等は同意を頂いた方のみとしている。プライバシーに関する勉強会も定期的に開催し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけにて対応できている。	利用者が理解しやすい言葉遣いをし、対応によって利用者の誇りを損ねることのないよう心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中や行動の観察で本人の思い、好みを把握し、本人の意思を尊重し、食事、衣類、行動も自己決定できるようにしている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活スタイルを大切に、その人らしく、一人一人のペースで希望に合った生活が送れるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて理美容も行きつけの所を利用している。服等は本人と一緒に買い物に行き好みの洋服を購入して頂き、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の出来る家事を見つけ食事作り、後片付けを会話しながら共に行っている。月に1回はリクエストメニューの日を設け本人の好きな物を注文して食事を楽しんでいる。	その人の誕生日に合わせたお祝いメニューや外食、旬の食事が楽しめるよう工夫されています。積極的に手伝ってくださる方もあり、できることを尊重して意欲に繋げる支援が行われています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排泄チェック表を活用し一日を通して一人ひとりの状態を把握している。また本人の状態に合わせた食事形態で提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の機能に合わせた歯磨きや口腔ケアを行っている。また状態に応じ歯科受診も行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行い、トイレで排泄できオムツの使用が少なくなるよう支援している。	自立されている方もありますが、誘導の必要な方もあり、個々のパターンに応じてトイレでの排泄を支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状態を観察し、乳製品や果物を提供して排便を促したり、医師に相談して下剤を使用し個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	会話しながら楽しく入浴できるよう配慮している。入浴拒否のある方はタイミングをみて朝に入浴して頂いている。一人ひとりの希望やタイミング健康状態に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	週3回温泉入浴を楽しんでいます。希望や状態によって時間帯を変更する等、状況に応じた支援をされています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて、ベット、畳、使い慣れた寝具を使用して頂いている。また身体状態にあわせて対応して、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服薬の確認を行い副作用、用法、用量について理解している。服用後の状態を主治医に報告して指示を仰いでいる。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握して本人の好きなことやりがいい、(畑作り、音楽鑑賞、散歩等)につなげるよう支援している。また外食、ドライブと外出の機会を多く持ち気分転換などの支援をしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	川や海の近くなので、外気浴を兼ね散歩に出かけたり、誕生日や希望がある時は外食やドライブへ出かけている。また各棟で行事を企画して出来るだけ希望に沿って外出できるように支援している。	外食、買い物ツアーを実施されている他、季節毎に楽しめる企画をし、車椅子利用者も一緒に外出されています。遠方に住む家族に代わり、墓参り等の個別の支援もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を持っている方もおり、買い物に出かけた際は預かり金を渡し支払いをして頂いている。一人ひとりの希望や力に応じ、お金を所持したり使えるように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や郵便物、手紙が届いたときは返事を書いている方もいる。また家族と電話で会話を楽しまれている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井窓から太陽光が入り明るい雰囲気であり、毎日の掃除、換気を行い清潔保持に努め利用者にとって不快や混乱を招くことがないよう配慮している。また季節を感じて頂けるよう、鯉のぼり、お雛様、花を飾り季節感を取り入れ、居心地良く過ごせるように工夫している。	ホールは天井が高く、開放感のある広々とした造りとなっています。飾りつけを毎月変えることによって、利用者が季節を感じ取ることができるように配慮されています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを配置したり、テレビの前にソファを設置し利用者同士が自由に楽しく会話して過ごせるように工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れて生活用品、家具を持参して頂き環境が変わっても、使い慣れてものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるよう記風している。	家族の遺影に毎日水をあげている利用者もおられます。利用者同士が部屋を行き来し、本人の意向に沿った居室づくりがされており、自分の家として生活されています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には花の絵や写真を貼ったり、花の名前を付けるなど利用者が分かりやすい工夫をしている。		